

2018年日漢協新年祝賀会 会長挨拶

2018年1月19日（金） 於：KKR HOTEL TOKYO

新年おめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、2月に「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」のフォーラムが開催され、3月には6つの提言内容を中心とした同研究会の提言書が公表されました。この提言内容を踏まえ、5月の日漢協総会にて、新たな『中長期事業計画2017（5カ年計画）』の策定、活動をスタートした日漢協にとりまして、極めて大きな変革の年であったと認識しております。

将来ビジョン研究会の6つの提言である、「漢方製剤等の必要性」「研究の推進」「品質確保と安定供給に向けた取り組み」「医療保険制度における位置づけ」「海外展開の推進」そして「産官学・国民との連携」について、迅速かつ着実に実行するため、日漢協として組織横断的な「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョンプロジェクト」を設置し、漢方を取り巻く課題解決を図るべく鋭意活動しております。日本東洋医学会においても「提言書検討委員会」を設置いただいており、双方が連携を取り、事業を推進しているところであります。いずれも、国民の健康と医療に貢献するとともに、漢方の持続的な発展を目的として取り組んでおります。

去る12月12日には、漢方の新たな展開と研究の進捗の発表のため「漢方の将来ビジョン研究会2017」を開催いたしました。がん支持療法においては、手術後の合併症である「麻痺性イレウス」「術後肝不全」「食欲不振」に対して、漢方薬の新たな薬効やバイオマーカーが明らかになりつつあるという報告がありました。支持療法だけではなく、肝臓における発がんおよび進展の予防という直接的な作用の基礎研究成果の報告もありました。また、高齢者医療においては、認知症に伴う周辺症状、睡眠薬による転倒や健忘などの例が挙げられ、漢方薬治療の副作用軽減は患者さんにやさしい医療の構築に加えて、介護者の負担軽減にもつながるといった報告がありました。さらに漢方製剤の剤形追加については、多成分系の生物学的同等性の評価に関する研究が進んでおり、2018年度から剤形変更に関する承認申請ガイドラインの策定に入るという報告がありました。そして、医療ビッグデータを用いた漢方薬の臨床研究・医療経済研究の追加報告もあり、漢方薬の費用対効果については、他の医薬品では少ないCost-savingつまり、健康アウトカムを改善し、医療費も減少させるという高評価でありました。このように、提言書発表後、一歩も二歩も進展している状況に感謝するとともに、日漢協といたしましても、先にお話ししましたプロジェクト活動にさらに注力してまいります。

『中長期事業計画2017（5カ年計画）』における重要かつ会員会社全てに共通する課題は「原料生薬の安定確保」特に、国内栽培です。

日漢協は、厚生労働省および農林水産省と共同で、2013年度から「薬用作物の産地化に向けたブロック会議」を開催し、国内栽培化を推進してまいりました。2016年度からは、全国農業改良普及支援協会と薬用作物産地支援協議会を設立し「薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会」として全国8地域で継続開催しています。2017年度は、前年度までの参加者の要望を踏まえて、日本産と中国産の原料生薬購入価格等の調査結果を提示しました。中国産の価格高騰が進むなか、品目数は少ないものの、日本産が価格的に優位な生薬もあります。価格と品質が同等であった場合、資源枯渇の可能性や輸出規制上のリスク回避、中国だけに頼らない資源開発が必要などの理由から、多くの企業が栽培可能な日本産生薬の購入および増産を希望していることがわかりました。

2017年度は生産者からの薬用作物生産拡大に関する要望票の提出を締め切ったところで、2016年度までの4年間で、36の団体・個人と折衝が成立し、折衝品目は計41品目に上っておりますが、試作栽培まで進んでいるのは2件という状況です。

（裏面に続く）

会員会社の薬用作物栽培事業の成功例であります熊本県での取り組みを見てみますと、自治体の理解と支援が整っていること、熱心なリーダーが組織を束ね、栽培加工の指導者がいること、そして加工設備建設の補助が受けられることなどが組み合わさっているという現状があります。

国産化の推進には生産者の組織化の後押し、そして設備投資の援助などが必須です。企業側も種苗の提供や栽培指導などの努力をしておりますが、生産者に対する何らかのサポートが無ければ国内栽培の拡大は困難であります。本日お集まりの皆様には、こうした現状をご理解いただき、課題解決に向けてお力添えをお願いしたいと思います。

さて、今年は診療報酬改定の年です。日漢協として薬価改定ならびに薬価算定ルールの見直しに係る意見として「医療用漢方製剤・生薬製剤の基礎的医薬品への適用」と「生薬の不採算品再算定の実施」を要望し、この1年活動してまいりました。今回、薬価制度の抜本改革における基礎的医薬品の対象薬効分類に生薬（刻み生薬）が新たに追加されました。

しかしながら、価格が高騰している同じ生薬を原料とする漢方製剤・生薬製剤も基礎的な医薬品に位置づけ貢献し続けなければなりません。高品質な「医療用漢方製剤・生薬製剤」を患者さんの治療のため、継続的に安定供給する必要があります。現行の不採算品再算定、最低薬価になる前の薬価を下支えする制度として位置づけられている基礎的医薬品に適用されるよう、引き続き粘り強く要望してまいります。この面におきましても、皆様のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

冒頭申し上げましたように、国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会の提言書を踏まえ、『中長期事業計画 2017(5 ヵ年計画)』に沿って、様々な課題解決に向け、スピード感をもって取り組んでいく。これがこの一年の計であります。医療用・一般用漢方製剤、生薬製剤、生薬ならびに原薬エキスを通じて、国民医療に貢献し、漢方のさらなる発展に寄与して参る所存でございます。あらためまして、本日お集まりの皆様方の変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、本年が、皆様方にとりまして、最良の年となりますようご祈念申し上げ、私の新年の感謝と御礼の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

以 上